

行田



案内図

 調査範囲

行田



案内図

 調査範囲



凡例



史跡・寺社等



その他の建造物



通り・広場・樹木他

行田



凡例



史跡・寺社等



その他の建造物



通り・広場・樹木他

行田



凡例



史跡・寺社等



その他の建造物



通り・広場・樹木他

行田



凡例



史跡・寺社等



その他の建造物



通り・広場・樹木他

行田

水城公園



国宝「金錯銘鉄剣」が出土した稲荷山古墳、日本最大の円墳である丸墓山古墳など多くの古墳が群集する埼玉古墳群がある。
市内には悠久の眠りから目覚め開花した「古代蓮の里」、江戸期の忍藩十萬石の城下町を今に伝える「忍城址」のほか、明治以降の足袋の産地を物語る「足袋蔵」が多く点在する風情のある街並など豊かな自然と歴史が息づく街である。

(写真は三階櫓・木屋橋・東門)

1

忠次郎蔵



国の登録有形文化財
昭和4年完成。行田足袋産業の隆盛期を象徴する近代化遺産。行田特有の「防火的」な造りで2階までを漆喰で塗り込めている。現在は市の補助を受けて整備され、催事施設及び、蕎麦・うどん店として活用されている。

2

工場



元は足袋・被服商牧禎舎の事務所兼住宅と工場。落ち着いた佇まいの中には欄干なども見事で、戦前の住宅様式の様相を伝える貴重な近代文化遺産。現在は藍染体験工房として活躍している。

3

蔵



大正時代建設と思われる足袋蔵の奥には明治期に建てられた蔵も並ぶ。住宅は昭和16年建設。行田では珍しく表通りに面して建てられた袖蔵形式の蔵である。

4

足袋とくらしの博物館



大正13年頃に建てられた店舗兼住宅で行田を代表する半蔵造りの店蔵。右脇には木造洋風2階建の工場があり、現在はNPO法人によって博物館として再活用されている。“My足袋づくり”体験(要予約)もできる。

5

武蔵野銀行 行田支店



国の登録有形文化財 昭和9年竣工。
市の中心部に位置するRC造2階建ての銀行。
県内でも数少ない戦前の鉄筋コンクリート造で、壁面や要所要所に施されたレリーフは優雅である。

6

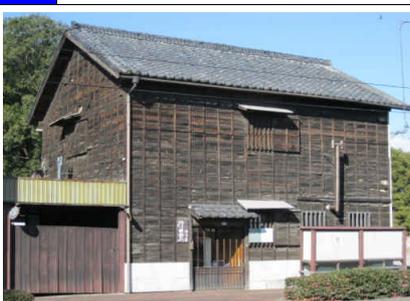
蔵



昭和26年に竣工。戦後の材木不足の時期であったため、大谷石を積み上げて壁とし、その上に屋根を載せた足袋蔵が多く造られた。蔵の建具までも大谷石を使っている。

7	足袋蔵ギャラリー	8	大澤蔵	9	天満稻荷神社
					
<p>大正5年に竣工。 2階建てと3階建ての足袋蔵。 敷地内には住宅(現・café)、土蔵(現・ギャラリー)、設計事務所もあり貴重なアート発信地になっている。</p>		<p>国の登録有形文化財。大正15年竣工。新町通りに面する蔵。行田で唯一のRC造と組積レンガ造併用の珍しい袖蔵形式の足袋蔵。後ろには明治末頃の土蔵が続き、往時の栄華が色濃く伝わる。</p>		<p>根本医院隣に鎮座する、こじんまりとして美しい社。江戸時代に大火事があり燃え広がった火がこの天満稻荷神社で止まった。一大産業であった足袋を火事から守ろうと、競って蔵を建てるようになったという。</p>	
10	奥貫蔵	11	工場	12	蔵
					
<p>国の登録有形文化財 表通りに面して建つ白壁が美しい2階建ての間口9間、奥行3間の大型土蔵。 足袋の生産量が増加し蔵も大型化していった時代の代表例といえる。</p>		<p>現存する行田で最も歴史ある大規模足袋工場。戦前の姿を美しく留めている。 敷地内には工場、事務所と数々の蔵が連なる。</p>		<p>新町通りに面して店舗は建つ。その東隣の蔵。地上からの腰壁はきれいな赤褐色だが大きく剥がれている。それはそれで趣深きところであり、脈々と呉服が積まれてきた蔵かと思うと愛着も‘ひとしお’なのである。</p>	
13	蔵	14	店舗	15	店舗
					
<p>昭和7年竣工の大谷石組積造2階建ての商品倉庫。屋根には行田の蔵に多い洋小屋組みが採用されている。昭和初期の行田を代表する大型の石蔵だそうだ。</p>		<p>国の登録有形文化財 元は呉服屋であった黒漆喰塗りの重厚な店蔵は明治16年に建てられたもの。昭和53年に改修が行われ外壁にナマコ壁が設けられている。</p>		<p>木造2階建て商家建築。昭和4年建設と伝えられているが、何度か持ち主が変わり現在は天然酵母のパン屋として使われている。 また、毎月一回店内でアートイベントが行われ、展覧会が開催されることもある。</p>	

16	蔵	17	まちづくりミュージアム				店舗
<p>城下町特有の短冊形の細長い敷地に並ぶ行田一の足袋の原料商であった商店の足袋蔵群。明治から大正・昭和にかけて建設されてきた数々の蔵並みは、街道沿い中心部にして迫力があり、シンボリックな景観である。</p>		<p>旧栗原代八商店蔵をNPO法人が借り受け改修し、観光案内や市民団体の交流の拠点として生まれ変わった。情報基地としての存在を担う店内は行田にまつわる様々なパンフレットが置かれ足袋を購入することができるほか、観光用のレンタサイクルも受け付けている。</p>		<p>大正時代の木造洋風建築で、建築当時とは所有者が代わったが、外観もそのままに引き継がれ、内部もモダンなデザインで大正期の良き香りが残されている写真館。</p>			
19	新町自治会館	20	病院				工場
<p>大正13年忍町信用組合の建物として建設された。大正期の洋館の代表的な様式である。</p>		<p>新町通り医院隣りの、愛らしい白く小さな神社を目安にその脇の道を東に進むと、総2階建てで外壁のモルタルがくすんだ渋さの際立った医院の建物がある。</p>		<p>昭和初期建設と伝えられるノコギリ屋根の木造洋風足袋工場。</p>			
22	銭湯	23	住宅				住宅
<p>明治時代の自然主義作家、田山花袋の小説『田舎教師』にも、しばしば登場する。国道125号沿いにあり、官公庁街にほど近い立地。しかしこの近年、営業されていないようである。</p>		<p>東西に路地を従え、北側に銭湯がそびえる所に建つ民家。木造2階建てで、南側に建つ木造の理容店とペアのよう絵になる家並。</p>		<p>路地に建ち並ぶ2軒の民家。路地に面するファサードはほとんどが木製建具で構成されている。</p>			

25	住宅	26	店舗
			
<p>商工センターの近くに素敵な民家がある。国道側から奥まり、むやみに視線にさらされることはない。西側からの姿に手入れが行き届いている様子がうかがえる。</p>	<p>行田商工センターと水城公園脇を結ぶ道の途中にある木造建築。</p>	<p>路地に囲まれ斜めの赤松と、こじんまりとした白壁の蔵に惹かれ足が向く。住居部分の隣には、もう今は営まれていない様子だが文具店があった。</p>	
28	水城公園	29	駅前のからくり時計
			
<p>町の中心部、市役所や城址から歩いてすぐの南に位置する憩いの場、水城公園。忍城の外堀跡を利用し、昭和39年に開園した。</p>	<p>秩父鉄道 行田市駅のロータリーに建つからくり時計。午前4回、午後5回と曲に合わせて‘成田氏長’と‘甲斐姫’の人形が舞う。</p>	<p>国の登録有形文化財 足袋御殿と呼ばれた美しい庭園をもつ豪邸。敷地内に事務所兼主屋、大広間棟と洋館が建ち並び、現在はいずれも店舗として再活用されている。</p>	
31	作業場	32	店舗
			
<p>水城公園の南側の南大通に面して建つ。元は荒井八郎商店の足袋蔵だったが、今は陶芸工房で木造の外壁は趣深い。</p>	<p>築200年の蔵を利用したレストランと居酒屋。行田を代表する蔵元の敷地内にある。店舗の中に川が流れ雰囲気盛り上げる。</p>	<p>創業文化2年(1805)の老舗店舗と工場・蔵。街道から見る外観は造り酒屋の王道というべく立派な看板や幟そして暖簾はとても魅力的である。店舗内には荒川水系の伏流水『福寿泉』が流れる。</p>	

<p>34 東照宮・諏訪神社</p>	<p>35 かねつき堂</p>	<p>36 忍城通り</p>
		
<p>交通量の多い国道沿いであるが一線を画し静かな佇まい。東照宮は家康の孫にあたる松平忠明にまつわる社。忍城社対面に鎮座する諏訪神社は、古代この地を支配していた忍一族が1190年頃、館や土塁を築き居住したと伝えられる。お百度参りの石が印象的である。</p>	<p>元々東照宮にあったものを個人が譲り受け同地へ移転した。近隣住民のコミュニケーションの場となっている。奥の店舗は、B級グルメで有名になったゼリーフライや、焼きそば入りのフライを求めて平日昼間でも客足が絶えない。</p>	<p>平成5年彩の国景観賞受賞。忍城社を訪れる人の利用が主な小路は静かで、木々に囲まれた美しい景観を見ながらのんびりと歩くことができる。</p>
<p>37 三階櫓・木屋橋・東門</p>	<p>38 伝進館表門</p>	<p>39 浮き城の径</p>
		
<p>かつて忍城にあった物をモデルに建設した三階櫓。2、3階は展示室、最上階は展望台で現在の行田市内を見渡すことができる。また、櫓と博物館とを結ぶ渡り廊下も設けられている。櫓の手前が木屋橋と東門であり、門内にて毎週『忍城おもてなし甲冑隊』の公演が行われている。</p>	<p>かつての藩校『進修館』の門と伝えられ、同地に移転された。行田市に残る唯一の武家屋敷の表門。天保3(1832)年築。</p>	<p>周囲を木々と花に囲まれた池から小さな川を経て城の堀へと続く水の径と小路。</p>
<p>40 木屋橋の歩道</p>	<p>41 からくり時計(城西)</p>	<p>42 店舗</p>
		
<p>平成5年彩の国景観賞受賞。木橋・お堀・歩道・車道とすっきりとしたラインナップで彩色豊かである。車道脇の家々に景観の向上と保存への協力がうかがえる。</p>	<p>午前2回、午後4回 音楽に合わせて8人の人形が姿を現すからくり時計。忍城三階櫓をイメージしたデザインで、交通量の多い国道の交差点のポケットパークに建つ。</p>	<p>平成13年の彩の国景観賞受賞。明治8年創業の川魚料理店。田山花袋の小説『田舎教師』に登場する。築100年を越える建物の骨組みを残しながら改築された店舗は、城下町にふさわしい品のある佇まい。</p>